

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	熊本県	市町村名		大学名	
派遣日	令和3年10月26日(火曜日) 13:30~15:45 令和3年度(2021年度)日本語教育支援連絡協議会(オンライン開催)における講演での講師としてリモートで出席いただいた。 ※派遣当日の次第、研修実施要項等は別添のとおり。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 派遣 / 遠隔				
派遣場所	オンライン開催のため該当なし				
アドバイザー氏名	京都教育大学 浜田 麻里 教授				
相談者	熊本県教育委員会				
相談内容	令和3年度(2021年度)日本語教育支援連絡協議会の講師として、以下の内容で講演を依頼した。 ①国内のグローバル化の概況と外国人児童生徒等教育の課題 ②関連する施策 ③外国人児童生徒等教育で重要な視点 ④全国における取組例 また、グループ協議においては、様々なグループに入室していただき、その場における参加者への助言、会の最後に講評とまとめを依頼した。				
派遣者からの指導助言内容	今年度の本協議会は、NPO法人との実務者協議会を重ねる中でテーマを「受入れ」としたため、テーマに則した助言をいただいた。 「子供の居場所を作ること」、「遊びの中で触れ合って関係性を作っていくこと」、「ロールモデルの存在が大切であること」など、協議の中での意見を取り上げて講評の際に参加者全員への指導助言としてお話いただいた。 また、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導については、学習指導要領への記載があり、個々の生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うことが大切であり、受入れの際には、複数の教師間の連携、目標を定めた計画的な個別の指導計画を作成することの重要性を述べられた。 そして、外国人の子供たちが将来、本国における共生社会の一員として、日本人の子供たちと日本を形成する存在であることを念頭に置くべきであると述べられた。				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	参加者からは、「日本語指導について、よく知らなかった。今回の研修でスタートラインに立てた。」「具体的に日本語指導の時間をどの時間で取ればいいのか、担任としてどのような指導をしていけばいいかを是非学びたい。」などの意見があり、県教育委員会としては、参加者の声を本県の課題と捉え、引き続きNPO法人との協議を重ねながら、本県の実状に沿った新たな研修等を計画・実施していかなければならないと感じた。				

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。